



「世界で最も 邪悪な男」の解剖

アレクスター・クロウリー…神話から実像へ

神話：メディアが創り上げた「黙示録の獣666」

- ・イギリスの大衆紙は彼を「世界で最も邪悪な男」「現存する最も邪悪な人間」と非難した。
- ・彼は自らヨハネの黙示録に登場する「獣666」を名乗り、そのイメージを生涯演じ続けた。
- ・世間の評価は、麻薬常習者、悪魔崇拝者、そしてセックスとドラッグ、獣姦、残酷な生贄にまみれた邪悪な魔術の実践者というものだった。
- ・このスキャンダラスな人物像は、カウンターカルチャーの象徴となる一方で、彼の本質を覆い隠してきた。このプレゼンテーションは、その神話の層を一枚ずつ剥がしていく。



第一層：反逆の息子 — 「獣」の誕生



- クロウリーは1875年、富裕な醸造業者の家庭に生まれた。両親はプロテスタントで最も厳格な宗派、プリマス・ブレザンレンの熱心なキリスト教徒だった。
- 厳格なキリスト教教育に反抗した彼を、母親は「獣 (the beast)」と呼んだ。彼はこの呼び名を、母親への対抗心とプライドの象徴として、生涯にわたり自らのアイデンティティとした。

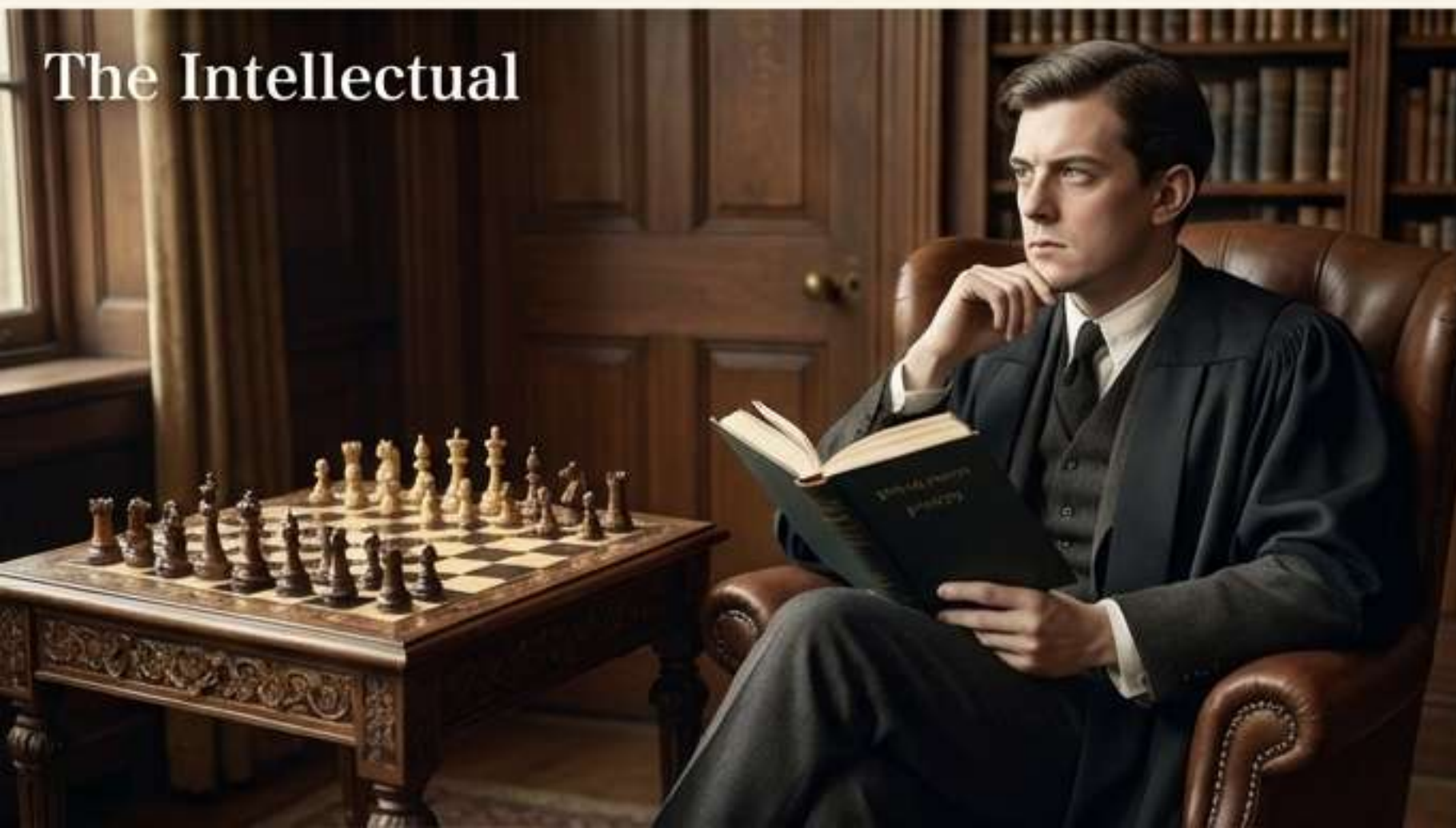


- 彼の「悪魔主義」は、純粋な邪悪さからではなく、抑圧的な宗教道徳への激しい反発から生まれた。彼は抑圧こそが悪の原因であると考えようになった。
- 11歳で尊敬する父が死去。これを機に、彼は神への情熱を「サタンの側」へと向け、聖書のイメージに満ちた少年時代から、サタンと自らを同一視し始めた。

第二層：冒険する知性 — 詩人、登山家、思想家

- 名門ケンブリッジ大学トリニティ・カレッジに入学。英文学を専攻し、多くの詩を発表。チェス部では部長を務めた。
- 詩人として世に出ることを決意し、自費で豪華な詩集を多数出版。リチャード・バートンやシェリーを敬愛し、デカダンス（退廃芸術）の潮流に身を投じた。
- 世界クラスの登山家でもあり、1902年にはオスカー・エッケンシュタインと共に、当時未踏峰だった世界第2位の高峰峰K2に西洋人として初めて挑戦。その後、カンチェンジュンガ遠征も率いた。
- 彼の探求は、魔術と登山という二つの領域にまたがっていた。どちらも「自然の力を支配したい」という欲求の現れだった。

The Intellectual



The Adventurer



第三層：魔術的ライバル — 「黄金の夜明け団」での対立



Aleister Crowley

- * 1898年、クロウリーは当時最も影響力のあった魔術結社「黄金の夜明け団 (The Hermetic Order of the Golden Dawn)」に入団。この結社には『ドラキュラ』の作者ブラム・ストーカーや、詩人ウィリアム・バトラー・イエイツ(後のノーベル文学賞受賞者)も所属していた。
- * クロウリーは驚異的な速さで位階を昇進したが、その素行(両性愛の噂や悪魔主義的魔術への傾倒)を問題視したイエイツらロンドンの団員は、彼の上位階級への参入を拒否。
- * 彼はパリにいた団長マグレガー・メイザースに直談判し、個人的に昇進を認めさせる。これにより、ロンドン支部とメイザース・クロウリー派の亀裂は決定的となった。



MacGregor Mathers



William Butler Yeats

ブライスロードの戦い：魔術師たちの決闘

- * 1900年、メイザースの代理人としてロンドンに戻ったクロウリーは、「黄金の夜明け団」本部の儀式用具と文書の支配権を奪おうと試みた。
- * ケルト風の衣装をまとい、おそらくは短剣で武装したクロウリーは、本部の階段を上がろうとした。



- * 彼を待ち構えていたのはイエイツと他の団員たちだった。両者は互いに呪文を叫び合い、魔術的な対決が繰り広げられた。
- * しかし、この「戦い」の結末は物理的なものだった。伝記作家によれば、イエイツ側のメンバーが「善の力」を行使し、足で彼を階段の下へ蹴り落とした。
- * この事件は、クロウリーが既存の魔術界から追放され、独自の道を歩み始める決定なききっかけとなった。

...When Crowley came within range the forces of good struck out with their feet and kicked him downstairs.

第四層（核心）：新時代の預言者 — エジプトでの啓示

- 1904年、クロウリーは新婚旅行で妻ローズ・ケリーと共にエジプトのカイロを訪れた。
- オカルトに興味のなかったローズが突如トランス状態に陥り、「彼ら（神々）があなたを待っている」と告げ、それは古代エジプトの神ホルスであると断言した。
- 懐疑的なクロウリーが彼女をブーラク博物館に連れて行くと、ローズは展示品の中からホルス神を描いた「アंक・アフ・ナ・コンスの石碑」を指し示した。その展示番号は「666」だった。
- この出来事に衝撃を受けたクロウリーは、ローズを介してアイワス（Aiwass）と名乗る超人間的知性体との交信を開始する。



『法の書』とセレマの誕生

汝の欲するところを行え、それが法の全てとなろう

Do what thou wilt shall be the whole of the Law

- * 1904年4月8日から10日にかけて、クロウリーはアイワスの口述を3日間筆記し、代表作『法の書』(Liber AL vel Legis)を完成させた。
- * この書は、キリスト教などが支配した「オシリスの時代」の終焉と、個人が自らの運命を支配する「ホルスの時代」の到来を告げるものであった。
- * これは単なる快樂主義の肯定ではない。各人が自らの「真の意志 (True Will)」—すなわち、宇宙における自らの真の目的—を発見し、それに従うことを求める深遠な靈的指令である。
- * この思想体系は、ギリシャ語で「意志」を意味する「セレマ (Thelema)」と名付けられた。

第五層：法の実践 — テレマ僧院の実験

- 『法の書』の教えを広めるため、クロウリーは魔術結社「A.:A.: (銀の星)」を設立し、後に「O.T.O. (東方聖堂騎士団)」の指導者となる。
- 1920年、彼はセレマの思想を実践する共同体「テレマ僧院 (Abbey of Thelema)」をイタリアのシチリア島に設立。愛人や弟子たちと共同生活を送った。
- ここでは、ハシシ、コカイン、ヘロインなどの薬物を用いた実験や、性魔術 (Sex Magick) が「真の意志」を探求する手段として体系的に実践された。
- しかし、弟子のひとりが僧院で死亡した事件をきっかけに、イギリスのタブロイド紙から猛烈な非難を浴びる。結果、1923年にムッソリーニ政権によってイタリアから追放され、僧院は閉鎖された。



Magickの体系：科学としての魔術



クロウリーは魔術を迷信ではなく、「意志に従って変化を引き起こす科学であり芸術である」と定義し、「Magick」という独自の綴りを用いた。



彼の体系は、黄金の夜明け団で学んだ西洋儀式魔術、カバラ、タロットを基盤に、世界旅行で習得したヨーガ、ヒンドー教タントラ、イスラム神秘主義などを貪欲に取り入れたものだった。



彼は魔術実験の緻密な記録を残すことを重視し、そのアプローチは「魔術は科学である」という彼の言葉を体現していた。



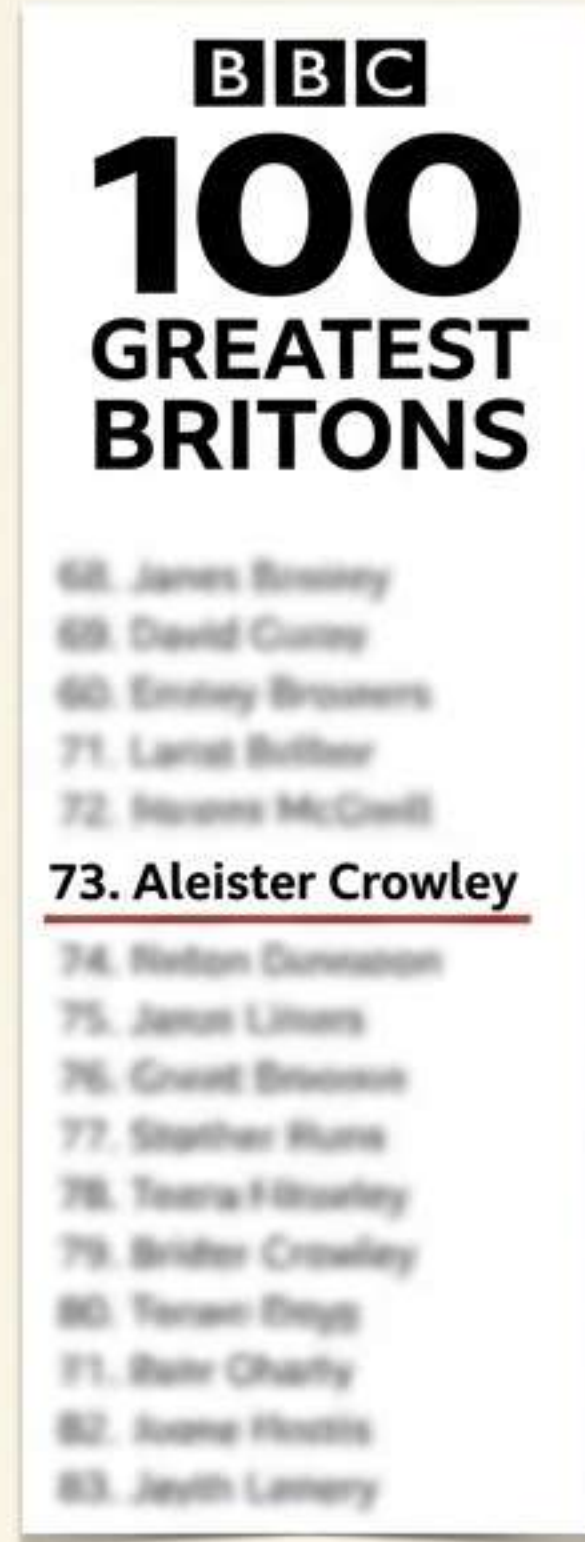
性魔術 (Sex Magick) : 性的エネルギーを解放・集中させることで、霊的・物質的な目的を達成する技法。O.T.O.の教義の中核をなした。

薬物を用いた魔術：ハシシなどの薬物を意識変容のツールとして用い、神秘体験体験への道を探った。



最終層：死後の遺産 — なぜ彼は「偉大な英国人」なのか？

- * クロウリーは1947年、貧困と無名のうちに72歳で死去した。彼の魔術は、人生の歯車を好転させることはなかった。
- * しかし、彼の思想は死後に再評価される。サイエントロジー創設者ロン・ハバードはO.T.O.のメンバーであり、現代魔術「ウィッカ」の創設者ジェラルド・ガードナーも彼に協力を求めた。
- * 彼の思想は、ニューエイジ思想、ヒッピー運動、精神解放、フリーセックスの先駆とも言える。



- * 最も驚くべき事実、2002年に英国放送協会（BBC）が行った世論調査「100人の偉大なイギリス人」で、クロウリーが73位に選ばれたことである。
- * 一体なぜ、スキャンダルにまみれた魔術師が、これほどまでに後世に影響を与えたのか？

サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンドの肖像

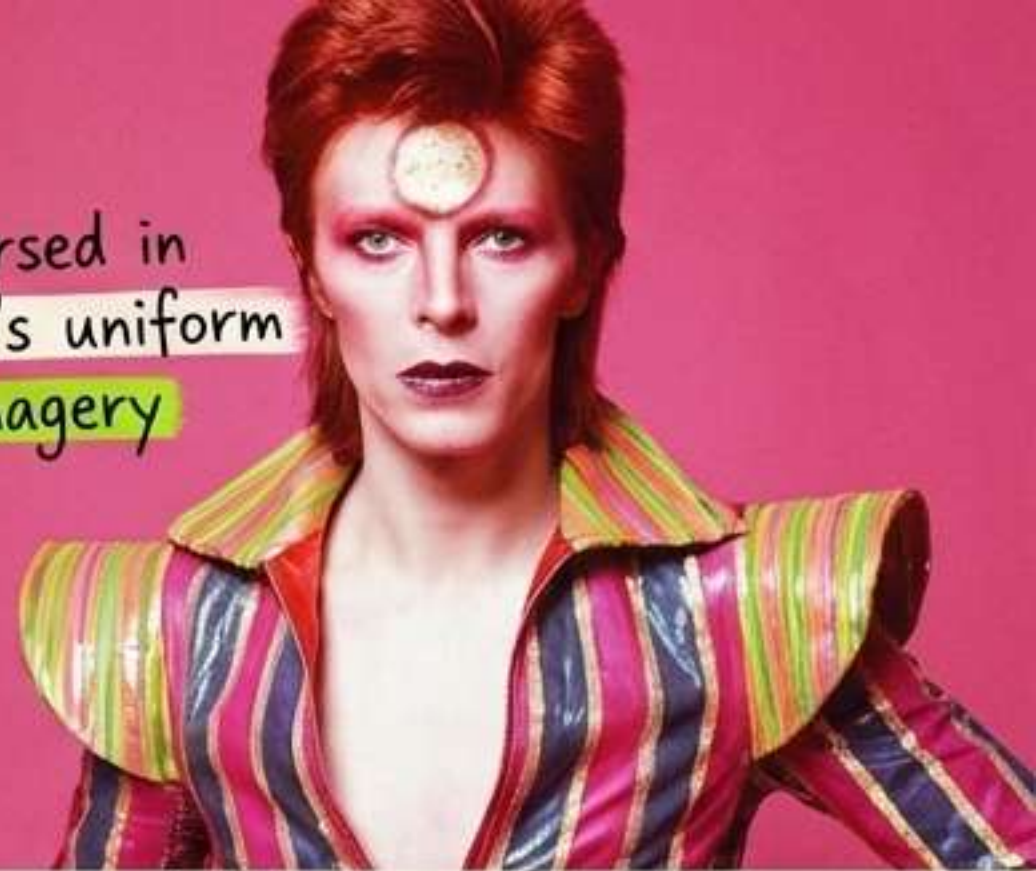


- クロウリーの最も有名で不可解な登場は、ビートルズが1967年に発表したアルバム『サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド』のジャケット写真である。
- バンドが「尊敬する人々」として選んだ群衆の中に、彼の顔ははっきりと写っている。
- ジョン・レノンは「ビートルズがやっていたことは、クロウリーの教えの応用だった」と語ったとされる。
- この一枚の写真は、20世紀最大の魔術師が、カウンターカルチャーの時代に、いかにして秘密のアイコンとなったかを象徴している。

ロックンロールの預言者



Immersed in
Crowley's uniform
of imagery



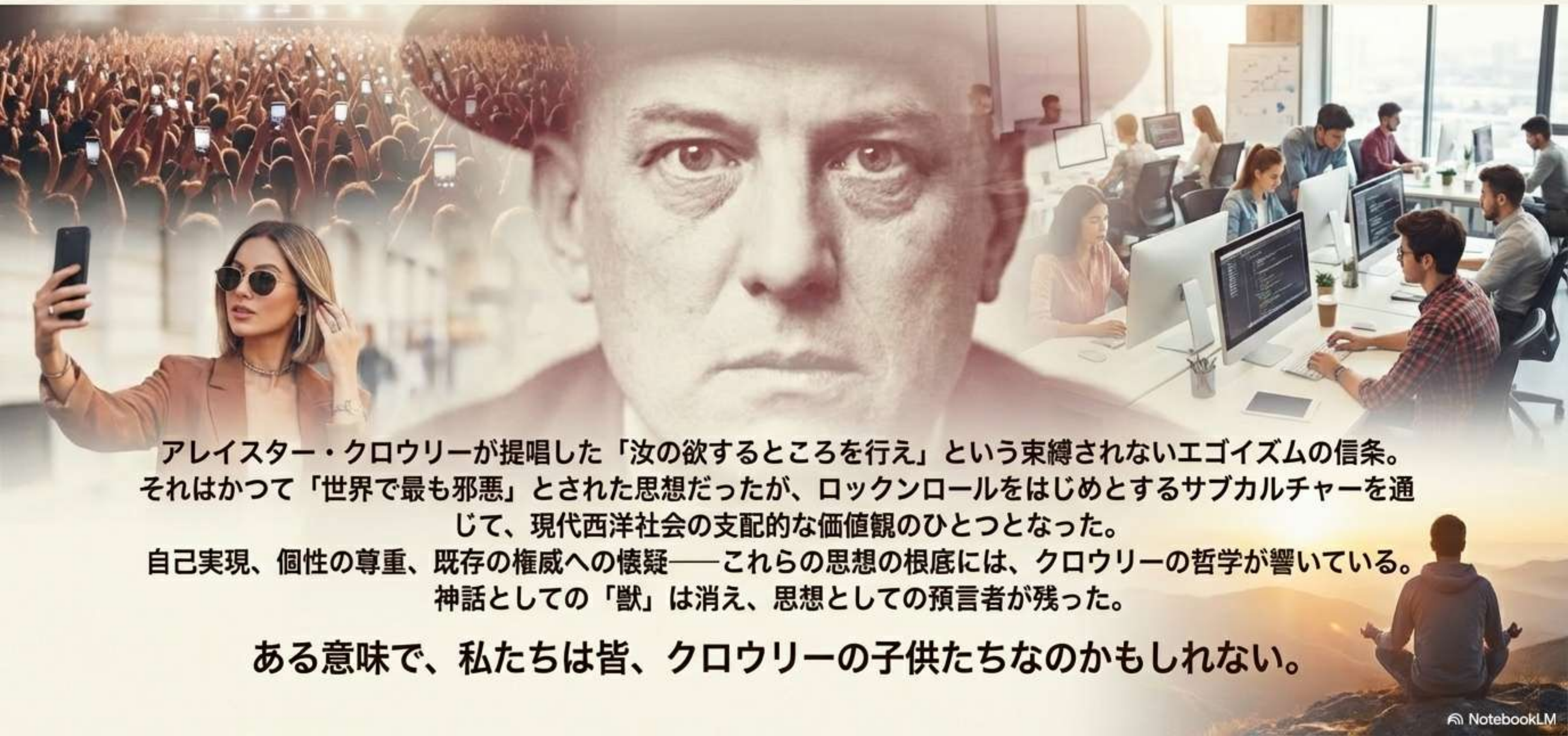
クロウリーの思想は、特にロックミュージックの世界に深く浸透した。彼の弟子であった映画監督ケネス・アンガーが、その大きな媒介役となった。

レッド・ツェッペリン：ギタリストのジミー・ペイジは熱心なクロウリー信奉者で、ネス湖畔にあったクロウリーの邸宅「ボレスキン・ハウス」を購入した。アルバム『III』のアナログ盤には「Do What Thou Wilt」の文字が刻まれている。

デヴィッド・ボウイ：彼の思想に深く影響を受け、1971年の楽曲「Quicksand」では「I'm closer to the Golden Dawn, Immersed in Crowley's uniform of imagery」と歌っている。

ローリング・ストーンズ：ケネス・アンガーを通じてクロウリー思想に触れ、楽曲「Sympathy for the Devil」やアルバム『Their Satanic Majesties Request』にその影響が見られる。

クロウリーの子供たち：現代に響く「汝の意志」



アレクスター・クロウリーが提唱した「汝の欲するところを行え」という束縛されないエゴイズムの信条。それはかつて「世界で最も邪悪」とされた思想だったが、ロックンロールをはじめとするサブカルチャーを通じて、現代西洋社会の支配的な価値観のひとつとなった。自己実現、個性の尊重、既存の権威への懐疑——これらの思想の根底には、クロウリーの哲学が響いている。神話としての「獣」は消え、思想としての預言者が残った。

ある意味で、私たちは皆、クロウリーの子供たちなのかもしれない。